

小川地区における小学校統廃合計画

小川地区小学校の統合方針について

「平成26年度を目標に小川小を統合小学校とし、薬利小・小川南小を統合する。」

【今後の小川地区小学校の在り方の検討経過】

- 平成21年12月 1日 小川地区小学校統合検討委員会設置・諮問
- 平成23年 5月30日 小川地区小学校統合検討委員会から教育委員会に答申
- 平成23年12月19日 教育委員会において答申内容を検討し、町長あてに小川地区小学校統廃合についての意見書を提出
- 平成24年 1月 6日 町長から統合方針を決定した旨の通知



今後の児童数の推移や出生者数等を総合的に判断し、複数学年にもわたる複式学級の解消を図ることが最も重要との意見から、次のとおり検討委員会の意見をまとめた。

- ①小川小、薬利小、小川南小は統合することは止むを得ない。
- ②統合小学校は現在の小川小を整備して使用することが適当である。
- ③統廃合は地域の合意形成に努め、児童の教育環境に配慮しながら進められたい。なお、3校同時で行うことが望ましい。また、統合にあたっては、対象校の児童・保護者の融和を図ることと統合校となる小川小への整備予算の重点的な配分に配慮されたい。

出生数の減少による少子化の進行に伴い、当町の小学校における学級編成においても少人数学級や複式学級などが生じてきており、児童の教育環境にも影響が出始めています。また、文部科学省が示した新しい学習指導要領では、集団活動を通じての人格形成や社会性の育成、特にコミュニケーション能力の醸成が重要とされており、複式学級の解消や多人数学級での教育が重要視されています。

このような状況から、小川地区小学校の今後の在り方について検討を行ってまいりましたが、「小川地区3小学校を統合することは止むを得ない。」「統合年次は平成26年4月1日を目標とする。」との方針となりました。

那珂川町立小中学校の統廃合経過

那珂川町が誕生した平成17年10月1日には町内に11小学校3中学校の町立学校がありました。少子化の進行に伴

通学条件の整備と安全対策

統廃合にあたっては、犯罪や交通事故防止のため、小川南小学校区においてもスクールバスの配置が必要である。

学校跡地の利用

学校は地域に根差した地域住民とのコミュニケーションの場であり、地域づくりの象徴でもある。統廃合後の跡地利用については、地域の特性や要望に合わせ地域の活性化に結びつく有効な活用を図られたい。

統廃合方針

教育委員会では、検討委員会の答申を踏まえ、統廃合までの周知及び準備期間を考慮して「統合年次は平成26年4月1日を目標とする。」こととして町長に意見書を提出しました。

今後の進め方

今後、各校区ごとに説明会を開催し、各学校PTAや地区住民の皆さまに町の統廃

い馬頭地区においては、学校統廃合計画に基づき合併後も引き続き小中学校の統廃合を進め、教育環境の整備と複式学級の解消に努めてまいりました。馬頭地区の小中学校は統廃合により現在、3小学校1中学校の学校体制となっております。小川地区においては、住宅施策や学区等の見直しにより3小学校1中学校体制の維持に努めてまいりましたが、少子化が進行する中で少人数学級や複式学級が生じるなど、児童の教育環境にも影響が出てきています。

このような状況から、小川地区においても平成21年12月1日に「小川地区小学校統合検討委員会」を設置し、「今後の小川地区小学校の統廃合について」諮問し、検討を行ってまいりました。

統廃合の推移

平成20年度 健武小・和見小・武茂小を馬頭小に統合、馬頭東中を馬頭中に統合
平成22年度 大内小・谷川小



方針を説明し、ご理解をいただくとともに、統廃合に関するご意見ご要望をいただきながら、統廃合児童の負担軽減への取組みと更なる合意形成に努めてまいります。

なお、統廃合にあたっては、統廃合内容の調整を行うため、学校関係者及びPTAなどによる統廃合準備委員会を設置して約一年間をかけて準備を行うこととなります。

大山田小を統合し馬頭東小として開校

現在の小中学校

- 中学校2校
- 馬頭中・小川中
- 小学校6校
- 馬頭小・馬頭東小・馬頭西小
- 小川小・薬利小・小川南小

統合検討委員会の答申

検討委員会には、町議会、行政区、小学校PTA、幼稚園・保育園保護者、学識経験者で構成される28名の皆さんに参加いただき、検討をお願いしました。

委員会では、平成21年12月から平成23年5月までの間に7回の会議を開催したほか、保護者説明会、住民説明会（3校区）、学校見学会（3小学校）を開催して現状調査や意見集約を行い、望ましい小学校教育環境の在り方を検討してまいりました。

検討委員会の答申概要は次のとおりです。

望ましい学校規模

文部科学省が示している1学級の児童数の標準は40人（1・2学年は35人）となっているが、当町の児童数の現状や推移を考慮し、1人の教諭が1学年ごとに指導でき、グループ活動など学習活動がしやすく、複式学級がなくなる大きさとし、その人数は1学年15人以上が望ましい。

学校統廃合の考え方

小学校の望ましい環境整備、学校規模の適正化、特に統廃合を検討するにあたっては、児童の教育を受ける機会均等の保障と児童の願いや思いが叶えられる学校環境整備を第一に考えて検討した。



那珂川町立小・中学校の児童生徒数の推移

【小学校】	H23.5.1現在													
	23		24		25		26		27		28		29	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
馬頭小	369	14	344	14	310	14	295	14	285	14	278	14	275	14
馬頭東小	110	6	101	6	93	6	85	6	83	6	83	6	77	6
馬頭西小	68	6	56	5	49	5	43	4	40	4	41	4	43	4
小川小	203	10	202	11	190	9	165	8	164	8	160	8	154	8
薬利小	34	4	42	4	38	4	38	4	39	4	37	4	35	3
小川南小	62	5	57	5	48	4	41	4	40	4	44	4	42	4
計	846	45	802	45	728	42	667	40	651	40	643	40	626	39

※学級数が6未満の場合は、複式学級が生じています。
※複式学級とは、2つの学年が1つの教室で1人の教員により学習する形です。

【中学校】	H23.5.1現在													
	23		24		25		26		27		28		29	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
馬頭中	305	11	326	12	313	11	320	10	291	10	259	10	227	8
小川中	181	7	170	7	172	7	177	7	173	7	142	6	122	6
計	486	18	496	19	485	18	497	17	464	17	401	16	349	14